

# 町長所信

(要旨)

今春、統合小学校と統合保育園が、市宇ヶ丘に完成します。子どもの減少、地震津波対策と施設の老朽化への対策として、中学校敷地へ統合移転するものです。周辺の皆様には、新しい運動場用地の提供や工事中の振動騒音に対するご理解をいただき、竣工にまで至りました。関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

そして、来年度は海部病院用地の造成、学校給食センターの建設を実施する計画です。財政的には非常に厳しい状況ですが、町の将来には欠かすことのできないものですので、ご協力の程、よろしくお願いします。現在、町の抱える課題を4つ述べたいと思います。1番に防災対策です。東日本大震災において、東北地方の沿岸部は壊滅的な被害を受けました。そして、いつか牟岐町でもあのような巨大津波が来ると言われています。今、東日本大震災を目撃した我々が、抜本

的な津波対策をしておくことが、我々の子孫に対する責務だと思います。そこで、災害弱者のいる保育所や小学校を高台に移しました。次に、災害対策の拠点である海部病院を高台に移し、大地震時でも最大の機能を発揮できる施設とする必要があります。そのために牟岐町で可能な限りの支援をすることが、長年にわたり海部病院の恩恵を受けてきた牟岐町の責務であると認識しています。今、用地造成工事が早期に開始できるよう、牟岐町としても「用地交渉」や「残土処分場の工事」に、全力で取り組んでいます。

海部病院の高台移転は、海部郡の、牟岐町の重要な災害対策施設として、また、数少ない公的な職場として、周辺地域との交流の場として、どうしても必要です。皆様のご協力をよろしくお願います。

2番目に過疎対策です。田舎の町村が存在する価値は、活気ある一次産業と、伝統的な美しい田舎のた

ずまい、田園風景や漁村風景だと思えます。そのためには、一次産業を再生させる必要があります。牟岐町の将来のためには、この本来の農林漁業の姿を取り戻す必要があると思います。現在、毎月第2、第4水曜日に、「牟岐町再生会議」を開催しています。みんなの問題意識を共有し、牟岐町の再生を考え、実際に行動することが目的です。町民が一丸となり、各種産業の復活に向け協議をし、努力を積み重ね、着実に前進していくことが必要です。牟岐町の現状や将来を心配されている皆様に出席いただき、独創的な意見や建設的な意見をいただき、実効ある取り組みを、協働で実施していくことを期待しています。

明るい話題ですが、現在の牟岐町は、これまでになく活気があります。「出羽島アート展」が、殊のほか盛況で、この成功により、牟岐町には、まだまだ大きな魅力、可能性が眠っていることを再認識しました。

今後は、この人の流れを切らさず、産業の創出、仕事の創出に繋げていくことが肝要です。人の流れが牟岐町の経済を活性化するような取り組みや仕組みが必ず必要です。観光地には必ず多くの宿と土産物があります。まずは、土産物の創造、宿の整備から取り掛かる必要があると考えています。

そのために、昨年、物産館を開設しました。しかし、場所が悪いのか、置いてある商品に魅力が足りないのか、来場者数も商品の販売もあまり伸びていません。物産館は、直接雇用の場となるだけでなく、町民の皆様が土産物を作り、出品する場所でもあります。農家の方でも農作物で漬物を作った出品できますし、漁師さんも魚を加工して出品できます。工芸品を製作して出品することも可能です。できるだけ多くの方に、競って出品してもらうために物産館は設置してあります。何とか、もう一年、試行錯誤をして継続したいと考えています。



牟岐小学校・保育園落成式